

【施策評価調査】

施策名	5-3-2	体験・交流活動の充実		120	生涯学習は、町民一人ひとりが自発的な意思により、自己の充実、啓蒙や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を利用し、自分に適した手段、方法を選択し、一生涯をとおして行うものです。その実現に向け、学習意欲が持続されるよう、様々な自然体験、社会体験、交流活動の機会の充実、事業の幅に広がりを持たせ、参加者の増加を図るとともに、生きがいのある充実した人生を送れるよう、さらに、学習を通じた人とのふれあいを豊かにするよう支援をしています。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	教育部生涯学習課	担当 リーダー	社会教育担当 横塚恵子		
環境変化	近年、社会環境が大きく変化し、生活様式、価値感が多様化し、住民の要望が多様化していると言われている				ボランティア団体やNPO法人*と連携し、生涯学習の一環として実施する自然体験、体験活動、交流活動を充実させ、参加者の拡大を図ります。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：自然体験年間参加者数(人)(文化・スポーツ・青少年 再掲)	平成16年度 1,000人	計画	1,400人	1,800人	2,200人	2,700人	3,000人
		実績	1,464人	1,870人	2,066人		
指標：体験活動年間参加者数(人)(文化・スポーツ・青少年 再掲)	平成16年度 44,849人	計画	45,600人	48,200人	52,800人	57,300人	60,000人
		実績	49,915人	50,639人	50,990人		
指標：交流活動年間参加者数(人)	平成16年度 1,740人	計画	2,000人	2,300人	2,500人	2,800人	3,000人
		実績	3,295人	2,994人	2,521人		
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	71,000	1,535,000	848,000		
	決算	0	729,859	669,499		

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
体験・交流活動事業費	当初 848,000	参加人数	A	多種多様な各種教室・講座を開催した。参加者数も目標値を達成することができた。公民館講座・教室は受講生同士の交流や毎日の生活を楽しく過ごすための一助となり、当事務事業の目的は達成しているものと思う。			
	決算 669,499	2,521人 / 2,500人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	統合
高齢者の居場所づくり事業(再掲)	当初 0	高齢者の居場所	A	高齢者が地域内において多世代の交流は必要であるので、居場所の交流方法や運営方法を各地域に提供していく。			
	決算 0	0 / 1箇所		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
	<p>計画どおりの事務事業を達成することができたものと評価する。 当事務事業は、「5-2-1 自然・体験活動への支援」とも関連性があることから、同じ目的とする事業は一緒になって進めていくこととする。</p>	<p>住民のニーズも捉えながら、当該事務事業を通して生きる喜び、他人とのふれあいを深め、感性豊かな心を育てるために、関係課、関係団体との連携を図り、体験交流活動事業を充実させる。</p>
総合評価	<p>継続的に施策展開されていると評価する。 ただし、後期計画策定に向け、単発的に事業を行うのではなく、他の分野の施策や生涯学習課行う他の施策などと抱き合わせにより、一層の成果をあげていくなど、手法を改善すること。生涯学習は自由な発想が可能な分野であるので、他課や関係機関、NPO団体等との連携を図った施策展開(他の施策との統合などを視野に入れた)を検討すること。 また、それに併せた施策指標も見直すこと。</p>	